

札幌狸小路商店街 (札幌狸小路商店街振興組合)

北海道札幌市

北海道最古のロングアーケード 商店街で、世界のお客様をお出迎え



取組の背景

安全・安心な街区整備が インバウンド対応の契機に

近年、札幌狸小路商店街では北海道の中でも外国人観光客によるにぎわいを見せている。商店街の発展と活性化には、安全で安心な街路環境が重要であるとの認識から、2004年に自主巡回活動組織を立ち上げ、2006年には民間交番を街区内に設置し改善に取り組んだ。その成果は大きく、街区環境は見違えるように変化し安全・安心な街区を取り戻した。これはインバウンド対応という観点からも一番重要な要素であった。またドラッグストア等の新規出店者にも商ルールを理解して頂き、整然とした街区の維持に協力を得た。インバウンド対策事業は2010年から実施し、加盟店の免税店化の促進、飲食メニューの多言語対応、決済サービスの多様化等の取組を進めた。また、2016年には、インバウンド向けのツーリストインフォメーションが開設した。買い物以外の魅力発信の取組で、商店街を舞台に北海道の歴史や文化を発信する「ナイトエンターテイメントショー」を実施したことも特徴的である。



ナイトエンターテイメントショーの様子

取組の内容

インバウンド特化の体制整備 と道路利活用を促進

同商店街ではインバウンド対応に向けての専門部隊として「繁盛特別委員会」を商店街組織に2017年立ち上げた。これは組合役員に限らず、ドラッグストアやチェーン店・ホテル・アミューズメントなどインバウンド対応の最前線にいる事業者に参加してもらうことで、

より現実に即した対応を検討しようとするものである。この委員会で狸小路に不足している事案の洗い出しをした結果、バス乗降場の整備が急務であると考え、2018年10月より国土交通省の補助金を活用したバス乗降場実験事業を実施し、新たな訪日外国人観光客の取り込み等の成果があったことから、本格実施に向けて協議を進めている。

また、免税店支援、飲食メニューの多言語化、海外版のスマートフォン決済導入支援、大型ビジョンによる観光情報の提供、都心民間交番での外国語案内対応、インバウンド向けのツーリストインフォメーションなど、様々な角度から取組を進めてきた。

更に、日本全国で訪日外国人旅行者の課題となっている「買物する以外の楽しみがない」とのアンケート結果から、夜間エンターテイメント事業として、2018年12月から札幌で活躍している大道芸人に披露の場を提供し、ジャグリングや楽器演奏などを開始し、市民や訪日外国人旅行者から好評を得ている。

加えて、同商店街は2018年10月には、札幌市から道路利用者のニーズへのきめ細やかな対応と自発的な取組を評価され、道路法に基づく、「道路協力団体」として認定された。この認定は、北海道内市町村では初めての指定で、全国でも数件しかなく、商店街としては初めての指定となった。この指定により、道路占有などで特例を受けることが可能となり、道路上で広告掲示やオープンカフェなどの収益活動を行うことが可能となり、最初の取組として、大型再開発工事期間のにぎわいを維持するため「狸小路にぎわい事業 deve★so(デベソ)」を2019年4月から実施し、好評を得た。



商店街にて設置した民間交番



商店街のマスコット「だっこボン」

取組の成果

集客増と加盟店満足を生み
出店希望あふれる商店街に

定期的実施される歩行者通行量調査は増加傾向にあり、訪日外国人旅行者の多さも寄与している。空き店舗は皆無で、空いてもすぐに埋まり、空きを待っている事業者も多く見受けられる。組合加盟率はほぼ100%で、街区での取組への信頼もうかがえる。賃貸価格も上昇しており、街区の優位性も向上している。また、狸小路の安全・安心への取組から街区での軽犯罪は大きく減少しており、効果が出ている。

更に、2018年には商店街の歩行者専用道路(公道)での配送ロボットの自動走行実験が行われるなど、様々な実証事業に参加する機会も多く、その事業の中で、先進的な事業のモデル商店街としての役割を果たしている。これまでの成果に限らず、将来に亘る商店街運営がされるよう、新たな課題抽出を定期的に検討するべく実証を繰り返し、事業効果の検証が図られている。

実施体制

同商店街では、チェーン店や大型店と協力関係を構築するため、組合運営とは分けて「店長会」という組織を確立させた。これにより各店舗の店長同士の交流を推進した結果、横のつながりが増え、店員までもが仲良くなるようになった。店員も商店街を強く意識してイベントを実施することで、商店街の組合員同士だけではできなかったイベントの実施体制を補うことができています。定例会では具体的な課題設定と事業提案を行いつつ進行させるため、目的意識を持って参加する機運ができています。インバウンド事業では、企画運営・検討として、「販促委員会」を、今後の対応協議として、「繁盛特別委員会」を設置し、事業成長に向けた体制がとれている。

キーパーソンからのコメント

今の繁栄は、先人の知恵と仲良き仲間、そしてチャレンジする精神

全国でも7つの街区が一つの商店街組合で組織されているのは珍しく、組合組織率においても、ほぼ100%である事は先人の知恵と努力の成果です。また最近では大型店やチェーン店に商店街に参画してもらった事はとても有効でした。大型店等の皆さんからも「商店街に意見を言わせてくださるのはありがたい」と感謝をされました。商店街運営は「人」が行うもの、人の繋がりがなくて繁栄は伴わない事は身に染みて理解

させられました。

ただ今後も順風満帆とは限りません。天災や、経済減速、戦争などの世情不安のリスクもあり、観光に頼りすぎると大怪我をします。インバウンド観光客は地元の方が使っている店だからこそ来てくれているのです。私は組合員に対して「地元のお客様を大切にしてください」と事あるたびに言い続けています。新しい事へのチャレンジを忘れずに、愛される狸小路に努めて参りたいと思っています。



札幌狸小路商店街振興組合
理事長
島口 義弘

商店街の
概要

狸小路商店街は、北海道で最古の商店街の一つで、明治6年に誕生し、2019年で146年目を迎える。7つの街区で構成され総延長約900m・店舗数約220店で、全蓋アーケードを持つ商店街である。昭和40年代までは、北海道商業の要として広域型商店街として役割を果たしてきたが、その後は地下街の開業、郊外大型商業施設の乱立、札幌駅前の再開発などにより老舗店舗は次第に少なくなった。近年では、商店街に多様な業態が入り、観光客を対象とした店舗が増えてきた。この結果、訪日外国人旅行者も利用するようになり、また近隣の新規客も増えてきている。現在は地元の憩いの場として、また観光面では札幌随一のショッピングストリートとして賑わっている。

- 所在地 北海道札幌市中央区南二・三条西
- 人口 約24万人(札幌市中央区)
- 電話／ 011-241-5125
- FAX／ 011-241-5126

- URL <https://tanukikoji.or.jp/>
- 会員数 185名
- 店舗数 小売業86店、飲食店88店、サービス業38店、不動産業2店、その他13店

- 商店街の類型 エリア価値向上型
- 主な客層 外国人観光客、サラリーマン／40歳代、50歳代